



☆ AWC事務局便り 9・10月号 ☆

タイで鉄砲水

タイ北部で豪雨があり9月8日(火)の朝、チェンマイ県ムアン郡メイヤオ地区の山の村で鉄砲水の大きな被害が出ました。30世帯が住むラフ族の村アディー村では、10世帯の家が土砂のために全壊・半壊の状況で家の中に泥が入り込んでおり、人々は寝るところもなく、親類や近所の家に身を寄せたり、外の東屋で野宿しなければならないという状態でした。

この日の夕方、ギー先生からの緊急支援の依頼を受け、お互いさまプロジェクトの支援金から布団と調理器具を購入していただき、AWCからの寄付として被災した家族に届けました。タイ山岳部の雨季は肌寒く、避難先の家にも余分な布団などはないため、寝具はとても喜ばれました。これだけスピーディに支援ができたのは、ギー先生と村の人たちのネットワークがしっかりと構築されていたからです。

翌日からはギー先生の教え子たちが丸一日かけて家の泥を掻き出す作業や、瓦礫の処理、炊き出しなどのお手伝いをしています。若者たちの力は本当にありがたいです。

政府関係者なども現場に入るほどの大きな災害でしたが、日本と違い、避難所などはない中で、様々なNGOが入って支援をしているようです。一日も早く元の暮らしに戻れるように祈りながらしばらくは災害支援を続けていきたいと思えます。



サタバーン先生

バーンメーランカムスクールで37年間子どもたちの指導をして下さっていたサタバーン先生が9月30日に定年となり、バーンメーランカムスクールを退職されました。サタバーン先生は子どもたちが体力を付け、自分に自信を持って生きていけるようにと専門の体育に力を入れる他、SUDOKU等の新しい学習も取り入れ、常に子どもたちの将来を思い尽力された先生です。

スタディツアーで私たちが訪問する時にはいつも大変お世話になった先生で、1998年にここの校舎建設をお手伝いして以来のお付き合いです。先生の熱心な指導の下に子どもたちが、様々なことに挑戦し、成長してきた姿を見てきましたので、感謝の思いで定年を心からお祝いしながらも、寂しさが募ります。



最後のボーイスカウトの授業

教育学部体育科を卒業後、1983年から現在まで37年間一度も異動をせずバーンメーランカムスクールで教師生活を全うしました。

当時メーランカムスクールは電気がなく、道路も悪く、サムン郡から12キロの悪路を通うのは大変でしたが、すぐに自然に囲まれたこの学校に愛着を持つようになりました。メーランカムスクールの子どもたちは、他の子どもたちに比べて様々な事において機会が少ないですが、無邪気で愛おしい存在です。

この学校で様々なことを教えました。多くは規律や健康、スポーツに焦点を当て、郡や県のレベルで良い成績を収めることができるようになるほど、スポーツの訓練には力を入れました。スポーツの能力を高めることで、子どもたちに軍や教師など就職のチャンスが広がると確信しています。

私はコーディネーターとして、AWCをはじめ日本からの支援を受けるお手伝いをしてきました。子どもたちのために機会を与える手伝いができたことを誇りに思っています。

サタバーン・シースコンタミット